

# 「ちばエコ農産物」栽培のために！ (品目別栽培カード 33)



## やまといも・普通栽培

千葉県農林水産部

### 1 栽培基準

やまといもの「ちばエコ農産物」の栽培基準は、普通栽培で設けられています。

普通栽培における化学合成農薬の使用成分回数と化学肥料使用量(窒素成分量)は、表1のとおりです。



▲ やまといもの普通栽培 (多古町)

表1 やまといも・普通栽培の「ちばエコ農産物」栽培基準

(平成24年4月現在)

作 型	上 限 量		堆肥目安量(kg/10a)			
	化学合成農薬 (使用成分×回数)	化学肥料使用量 (窒素成分kg/10a)	牛ふん	豚ふん	鶏ふん	土づくり 的堆肥
普通	11(10)	10.5	2,300	900	500	3,000

注) カッコ内は種いも購入の場合

## 2 栽培基準達成のポイントと考え方

### 1 病虫害防除

「ちばエコ農産物」の栽培基準に適合した農薬防除例を表2に示します。

病虫害防除では、まず、病虫害の発生状況を観察し、防除する必要がある病虫害を把握しておくことが重要です。やまといも栽培で最も重要なのはネコブセンチュウを始めとした土壌病虫害の防除です。茎葉部では葉渋病、炭疽病、カンザワハダニが問題となります。種いもを適切に管理して健全な状態で植え付けることが基本となります。また、雑草対策にも配慮が必要です。

化学合成農薬を削減するためには、葉渋病、炭疽病に対してはZボルドー、カンザワハダニに対してはコロマイト乳剤など、天然由来成分の農薬を活用することが有効です。

なお、やまといも栽培は、種いもの初期投資が大きいことから、栽培を失敗すると翌年の経営に大きな影響を及ぼします。病虫害の発生が多いほ場での栽培は控えることも大切です。

表2 やまといも・普通栽培の「ちばエコ農産物」栽培基準に適合した農薬防除例

処理時期	主要作業	農薬名	10a当たり使用量 (希釈倍数等)	対象病虫害	備考
2月	種いも消毒	ティービック水和剤	50倍	根腐病	土中貯蔵の場合
4月中旬	土壌消毒	クロールピクリン	20L	根腐病 褐色腐敗病 センチュウ類 1年生雑草	
		D-D	20L (2~3ml/穴)	ネコブセンチュウ	線虫密度が低い場合は省略
6月下旬	培土後	コダール水和剤	300g	1年生雑草	
7月中旬		※Zボルドー	500倍	葉渋病、炭疽病	
8月上旬		※コロマイト乳剤	1,000倍	カンザワハダニ	
8月中旬		※Zボルドー トレボン乳剤	500倍 1,000倍	葉渋病、炭疽病 アブラムシ類 ヤマノイモコガ ハスモンヨウ	発生に応じて使用
8月下旬		※Zボルドー	500倍	葉渋病、炭疽病	
9月上旬		※Zボルドー ※コロマイト乳剤	500倍 1,000倍	葉渋病、炭疽病 カンザワハダニ	発生に応じて使用
9月中旬		アミスター20フロアブル トレボン乳剤	2,000倍 1,000倍	葉渋病、炭疽病 アブラムシ類 ヤマノイモコガ ハスモンヨウ	発生に応じて使用 発生に応じて使用

注) ※印は、「ちばエコ農産物」栽培基準における化学合成農薬に含めない農薬

#### A 種いも処理 ～消石灰を上手に使って～

健全な種いもを用い、切り口や傷の濡れや過乾燥を防止して、切り傷のコルク化を早めることが重要です。種いも処理に農薬を使用しない場合は、種いもの貯蔵に低温庫（5℃程度）を利用し、洗浄した種いもを切断し、全体に消石灰をまぶしてから、ポリエチレン製の袋に消石灰とともに入れて、袋を密閉し低温で保管します。

## B ほ場準備

### ● 土壌消毒 ～処理後はビニルフィルム等できちんと被覆～

土壌中の線虫や土壌病害を対象とした土壌くん蒸剤は、処理期間中にビニルフィルム等で土壌を被覆します。これにより、ガスの揮散を防止し、地温を高めることで薬剤の安定した効果が発揮されます。春先の強風でフィルムが剥がれないように注意します。

ネコブセンチュウによる被害芋▶



## C 生育期の病害虫対策

### ● ハダニ及び食葉害虫 ～観察で発生初期に防除～

乾燥が続くとカンザワハダニが発生しやすくなります。梅雨明け後に晴天が続いたらスプリンクラーやレインガンを用いて定期的にかん水します。薬剤防除にはコロマイト乳剤を用います。

夏期にはヤマノイモコガやハスモンヨトウなどの食葉害虫が発生します。発生に応じてトレボン乳剤などを1～2回散布します。

### ● 炭疽病、葉渋病 ～予防と効果的な農薬の使用～

炭疽病や葉渋病は、気温が上昇する7月中旬以降に発生がみられ、9月以降に著しく発病すると被害を受ける場合があります。7月中旬からZボルドーを散布し予防に努めます。8月下旬以降の降雨により多発生が予想される場合は、防除効果が高いアミスター20フロアブルなどを散布し拡大を防ぎます。



▲ 葉渋病の発生した葉

### ● ほ場管理 ～残渣の処理で翌年の発病防止～

茎葉部の残渣やむかごは翌年の病害の発生源となります。収穫前に地上部をほ場外に持ち出して処分します。残った葉やむかごは冬季の低温に当たった後に、十分に耕耘して分解を促進させます。

## 2 雑草防除

作付け前にクロールピクリンによるくん蒸処理を適切に行い雑草の密度を下げます。除草剤の効果を高めるためには、作付け前の砕土をていねいに行うこと、散布時の土壌水分が適度な状態であることが大切です。培土後にはコダール水和剤等の土壌処理剤を散布します。また、ほ場周囲の除草も行い、周囲からの病害虫の侵入を防ぎます。

### 3 施肥と土づくり

「ちばエコ農産物」栽培基準に適合した堆肥及び肥料の施用例を表3に示します。堆肥による土づくりに加えて、有機質肥料の施用により、「ちばエコ農産物」の栽培基準の達成が可能です。

なお、表3の施用例は主要農作物等施肥基準（平成21年、千葉県）の施肥量に準じていますが、前作の残肥等によって必要な施用量が異なりますので、各ほ場の施肥量は土壌診断に基づいて決めます。

また、登録名称内に「有機」などの文字が記載された肥料であっても、化学肥料由来の窒素を含んでいることが多いので、JAまたは肥料販売業者に問い合わせ、有機質由来と化学肥料由来の窒素の割合を把握しておく必要があります。

表3 やまといも・普通栽培の「ちばエコ農産物」栽培基準に適合した堆肥と肥料の施用例

区分	製品名	保証成分量(%)			現物施用量 (kg/10a)	成分施用量(kg/10a)		
		窒素	りん酸	加里		窒素	りん酸	加里
堆肥	牛ふんもみがら堆肥				2,300			
基肥	なたね油かす	5(0)	2	1	120	6.0(0)	2.4	1.2
	スーパーMMB有機	10(6)	12	10	80	8.0(4.8)	9.6	8.0
追肥	NKC6号	17(17)	0	17	20	3.4(3.4)	0	3.4
	菜種油粕ペレット	5(0)	2	1	67	3.4(0)	1.3	0.7
総施用量						20.8(8.2)	13.3	13.3

☆この「品目別栽培カード」に記載した農薬・肥料使用例は、平成23年度現地実証試験時点のものです。実際の農薬使用に際しては、ラベルの表示をよく確認するとともに、最新の農薬使用基準を守って使用してください。

なお、栽培基準は平成24年4月改訂後のものを記載しています。

- 著 作 千葉県農林水産部担い手支援課  
千葉県農林総合研究センター
- 編集・発行 千葉県農林水産部安全農業推進課
- 発行年月日 平成25年1月

■内容についての問い合わせ先  
千葉県農林総合研究センター  
TEL. 043(291)9987



千葉県マスコットキャラクター チーバくん

**CHIBAちば**